

投資のレッスン（2014年11月4日）

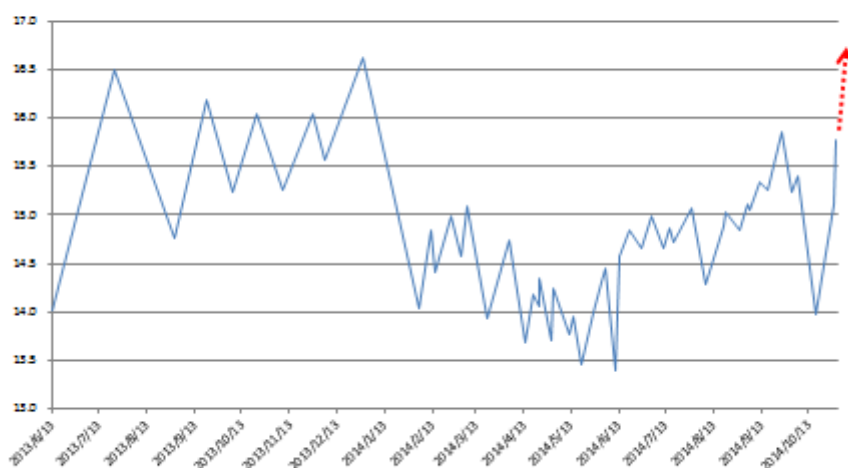
Q E E 2以降の相場展開を予想する

ここから先はバブル水準

何故、日銀がQ Q E 2（量的質的金融緩和第2弾）を行ったのか、何故、この金額なのか、あれこれ悩んでも仕方ありません。そんなことは評論家に任せておきましょう。今はどうでもいいことです。問題はこれからどうするか。すでにNYでは日経平均は17400円台で取引されています。

推計されるEPS1040円で割りかえすと、これは16.7倍。昨年年末の水準ですから割高と判断されます。更に上に進むためにはバブルを覚悟しなければなりません。

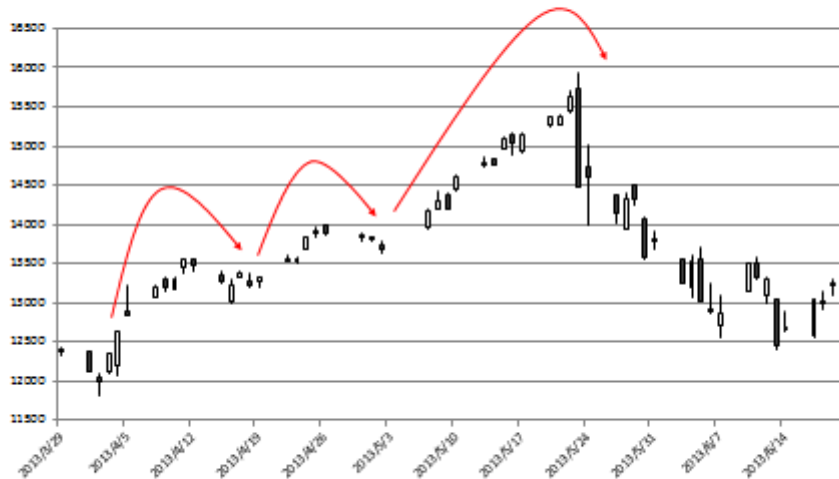
日経平均のPER推移



Q Q E 1のパターンを振り返る

とは言え、相場は勢いがつけば止まりません。2013年4月4日に発表されたQ Q E 1（量的緩和第1弾）からバーナンキ・ショックに見舞われる5月23日までの展開を見れば一目瞭然です。詳しく見るとこの時は3回の波動で総計29%の上昇となりました。

QQE1:2013年4月～6月の日経平均(円)



最初の波で4月3日から数えると10%の上昇。その後4%ほど調整し、そこからまた上昇(4月3日からだと13%)。そして5月連休明けからスピードは加速し一気に登り詰めます。

登り詰めた背景は業績の上方修正があります。それとグレートローテーションという言葉。先物が主導する形で大相場を形成し、破裂しました。

予想されるQQE2後の動き

さて今回はもうすでに2014年10月30日から数えれば11%の上昇となっています。過去の例からすれば(2013年1月3、4日、2月12日、5月6日)、このような形での上昇を経た祝日明けの火曜日は、一旦は小さい調整に見舞われるでしょうが、それも一巡すれば、次は恐らくは15%上昇となる18000円を狙いに行くことになるでしょう。但し、柳の下にドジョウは2匹いない。

QQE1後が3回の波動ですが、今回は恐らく1~2回。上昇率は15%程度と予想します。理由は消費税率の再引き上げが控えているから。

QQE2:2014年9月以降の日経平均(+今後のイメージ)



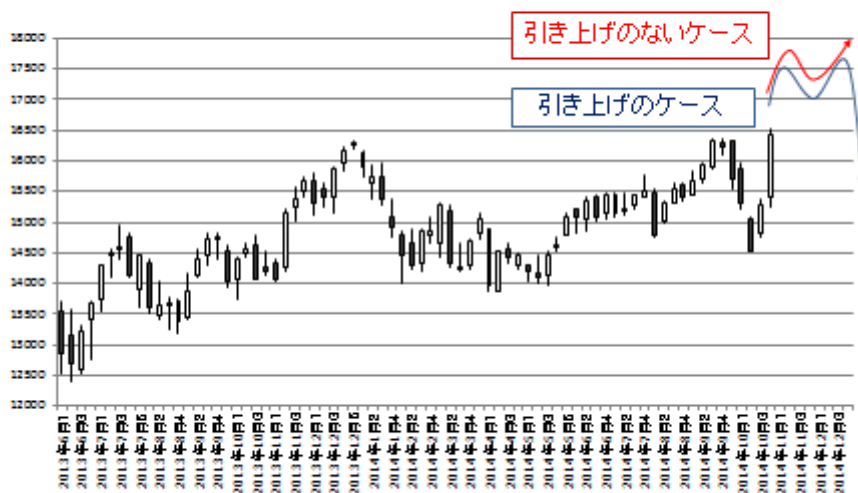
増税そして米国の利上げ

好調な決算も後押しすることで堅調な展開が予想されますが、いつでも蜜月は短いものです。まずは1週間。来週には11月17日(月)に発表される7-9月期GDPが意識されることになるでしょうし、そこから先は消費税率再引き上げが相場のテーマとなる可能性が高い。見送る観測が広がれば、財政再建原理主義者たちが“外国人が売ってくるぞ”と脅しをかけるでしょうし、引き上げる観測が広がれば、現実肯定派が“景気の腰折れが懸念される”と弱気論をぶち上げます。ちなみに私は後者の現実肯定派に属していますが、どちらにしても良いことはなさそうです。

一部には、今回のQQE2で景気が持ち直し、一気に企業業績も回復すると見る向きもありますが、これこそまさにバブルでしょう。まだそこまで強気を語るだけのデータはない。円安の効果も日銀のインフレ目標にはプラスでしょうが、国全体の実質支出にはマイナスです。

勿論、全体の業績押し上げ効果には貢献するでしょうから、日経平均の割高感は解消されるでしょう。いずれにしる何度か割高な水準まで買われて、そのたびに国際比較して適正とされる水準までふるい落とされることになる。トレーダーには血沸き肉躍る展開が予想されます。

日経平均(週足) + 今後のイメージ



更にその先に控えるのは米国の利上げ。今はまだその時期ではありませんが、これはグローバルに影響が出ますから十分に準備をしておく必要があります。即ち、戦略をトレーディング的に考える人と、ポートフォリオ的に考える人では、ここから先は運用の仕方が大きく変わらざるを得ないという結論になります。

このあたりのところは11月8日(土)に予定されている“緊急セミナー”(詳しくはオフィシャルサイトをご確認ください)で分析・解説を行う予定です。